

二・二八事件を どう語るか

関西学院大学

唐 顥芸

1. 二・二八事件とはなにか

2. 二・二八事件の影響



二・二八事件とは なにか

二・二八事件とは

- 1947年2月28日に、台湾で起きた民衆の抗争とそれに対する政府の武力鎮圧である

二・二八事件とは

- 事件のきっかけ
- 事件の遠因
- 事件の経過

事件のきっかけ

事件のきっかけ

- 27日夜の台北、取締員がヤミ煙草売りの婦人林江邁を殴り、威嚇発砲した流弾が青年陳文溪を死亡させた
- 28日昼、行政公署の衛兵が抗議民衆を機関銃で掃射し、多くの死傷者を出した



二二八當日，遊行抗議民眾在臺北火車站前的情景。(臺北二二八紀念館提供)

28日台北駅前

事件の遠因

事件の遠因

- 行政面
- 経済面
- 社会面
- 文化面

行政面

- 行政長官陳儀は警備総司令を兼任し、行政、立法、司法、人事、監督と軍事権をすべて持っている
- 公務員の汚職、違法行為⇒政府に対する不信感
- 人員任用の差別⇒外省人と本省人の対立

- 外省人 = 1945年後中国本土から台湾にきた人々 ⇒ 抗日戦争を経験した
- 本省人 = 外省人の呼び方に対し、1945年前から台湾で生活していた人々を指す ⇒ 日本統治を経験した

表一：臺灣省行政長官公署各處中高級官員省籍統計表

職稱 機構	秘書		專員		科長		股長		視察		主任	
	外省	本省	外省	本省	外省	本省	外省	本省	外省	本省	外省	本省
秘書處	2	0	9	2	2	0	9	0	0	0	3	0
民政處	3	0	9	2	4	0	13	0	6	0	1	0
教育處	3	0	0	0	2	0	13	1	12	3	3	0
財政處	1	0	7	0	6	0	17	3	10	0	2	0
農林處	1	0	31	3	8	0	0	0	1	0	2	0
工礦處	2	0	10	0	4	0	10	1	0	0	1	0
交通處	2	0	10	0	0	0	6	0	10	0	3	0
警務處	3	0	1	0	4	0	20	2	17	0	1	0
會計處	0	0	3	0	3	0	7	0	0	0	0	0
合計	17	0	90	7	35	0	95	7	46	3	16	0

資料來源：《民報》，1946年11月18日，500號，3版。

任用の差別

経済面

- 統制政策
- 専売制度
- ⇒公営企業の独占、公務員の汚職、経営の悪化、物価の高騰、失業率の上昇

表二：臺北市民生主要日用品物價表 單位：（元）臺幣

種類 \ 時間	1946年1月	1947年2月	上漲倍數
米（斤）	8.84	42.67	4.83
麵粉（斤）	11.11	59.72	5.38
豬肉（斤）	31.95	102.78	3.21
雞蛋（個）	2.67	9.17	3.43
花生油（斤）	27.67	106.39	3.84
鹽（斤）	1.33	9.44	7.10
白糖（斤）	2.70	60.28	22.33
茶葉（斤）	6.70	61.11	9.12
香菸（十支）	3.00	9.67	3.22
陰丹布（尺）	15.40	92.40	6.00

資料來源：臺灣省行政長官公署統計室，《臺灣物價統計月報》，1946-1947年。

物価の高騰

社会面

- 軍隊、警察と民衆の衝突
- 1946年2月から1947年1月まで52件、平均一ヶ月3～4件
- ⇒治安問題、政府に対する不信感、外省人と本省人の対立

文化面

- 台湾人奴隸化説
- 1946年10月25日、新聞雑誌に
おける日本語の使用禁止

「許多外省人，開口就說臺胞受過日人奴化五十年之久，思想歪曲，似乎以為不能當權之口吻。（中略）只以為不能操漂亮的國語，不能寫十分流利的國文，就是奴化。那麼，其見解未免太過淺薄，過於欺人」

王白淵「告外省人諸公」（1946年1月）

事件の経過

事件の経過

- 全台湾各地の暴動
- 処理委員会の設立
- 政府の対応と軍隊による虐殺

全台湾各地の暴動

- 28日夜から、板橋、基隆、桃園、新竹、台中、雲林、嘉義、台南、高雄、花蓮、台東など、各地民衆が蜂起
- 青年たちが、各地の駅前で演説し、交番を襲撃し、武器を奪い、治安維持隊を組織した

- 台中、雲林、嘉義、高雄各地は、青年学生のほかに、退役軍人も加えて、軍隊と激しい戦いを交した
- 斗六では虎尾空港を制圧／嘉義では市役所を占領し、水上空港を包囲／高雄では高雄要塞を除いて、憲兵隊、軍隊物資の倉庫などを制圧し、武器を収奪した

処理委員会の設立

- 3月1日 「緝煙血案調査委員会」
- 3月2日 「二・二八事件処理委員会」
- 3月5日 処理委員会による政策改革
案の提出

政策改革方案

1. 二・二八事件の責任は政府にある
2. 公署の秘書官、民政、財政、工鉱、農林、教育、警務など各局の局長と法政委員会の半数は台湾人が担当する
3. 公営事業は台湾人が運営する

4. 県長と市長選挙の実施
5. 専売制度の撤回
6. 貿易局、宣伝委員会の廃除
7. 言論、出版、集会の自由
8. 人民の生命と財産の安全を守る

政府の対応

- 3月2日、陳儀は処理委員会の設置を同意する一方、蒋介石に派兵を要求
- 3月5日、蒋介石から歩兵一団、憲兵一營を派遣した電文が届いた
- 3月6日、陳儀はラジオ放送を行った

陳儀のラジオ放送：

「台灣同胞，自從二月二十八日台北市事件發生以後，我曾兩次廣播，宣布和平的解決辦法。台北方面，這幾天經憲警及地方人士共同努力，秩序已安定，曾經有問題的各縣市，已趨好轉，我想，不久可以恢復原狀。（中略）中華民族最偉大的德行就是寬大，不以怨報怨，我們對本省自己的同胞，難道還會不發揮偉大的美德嗎？」

政府の対応

- 3月7日、陳儀は処理委員会の代表を接見したが、提出された「三十二条改革要旨」を拒否した
- 3月8日、憲兵団団長張慕陶が処理委員会の会員に中央政府からの派兵を否定した

軍隊による虐殺

- 3月6日、高雄要塞の司令彭孟緝が約束通り会いにきた高雄の処理委員会の代表たちを拘束し、軍隊を市内に向わせた⇒彭孟緝は「高雄屠夫」と呼ばれた
- 軍隊は市民を射撃し、市役所、駅、高雄中学などを制圧した

軍隊による虐殺

- 3月8日、中国本土からきた軍隊は基隆から上陸し、5月15日まで、全台湾で大規模の虐殺を行った
- 一般市民を虐殺したほか、処理委員会の委員、新聞記者、弁護士、医者など台湾人エリート of 逮捕と処決

陳澄波

- 1895年台湾嘉義生まれ
- 1924年東京美術学校に入学
- 1926年「嘉義街外」で第7回帝展に入選
- 1946年嘉義市議員に就任
- 1947年処理委員会の委員として、交渉する際に逮捕され、嘉義駅の前で処決された





嘉義街外



夏日街景



廟口

基隆の虐殺

- 8日に、軍隊が上陸して、埠頭からいきなり民衆に向けて、掃射する
- 針金で腕と足首を貫通し、数人をつないで一気に銃殺する
- 死体を海に捨てる



二・二八事件の影響

二・二八事件の影響

- 省籍の対立
- 親日の傾向

省籍の対立

- 外省人 = 1945年後中国本土から台湾にきた人々 ⇒ 抗日戦争を経験した
- 本省人 = 外省人の呼び方に対し、1945年前から台湾で生活していた人々を指す ⇒ 日本統治を経験した

二・二八事件まで

- 接收にきた統治者としての外省人と被統治者としての本省人の構造が作り上げられた

「還有一部分外省人，以為我們由重慶來，抗戰八年，而獲得最後的勝利，臺省的光復，完全靠著我們的力量，你們並無任何的功勞，好像把臺省看作一種殖民地，對臺胞抱著一種優越感，使臺胞和外省人，在不知不覺中，漸漸發生隔膜」

「我們以為臺胞應該負起歷史的使命，不可將自己的命運送給外省人。在以臺治臺的原則上，共同奮鬥，才有一天可以像人」

王白淵「告外省人諸公」（1946年1月）

二・二八事件の渦中

- 外省人の政府に抵抗する本省人の民衆
- 外省人の民衆を攻撃する本省人の民衆
- 外省人の軍隊と政府に虐殺、処刑された本省人の民衆

二・二八事件のあと

- 外省人の政府に逮捕、清算された本省人の民衆
- その後にきて、事件を知らない外省人の民衆と、事件の記憶と傷を心に封印した本省人の民衆

親日の傾向

日本統治期

- 1895年から1914年まで続いた武力抗争
- 農民運動、労働者抗争、議会自治請願運動などの社会運動による抗争
- 日本統治がもたらした現代化は歓迎するが、植民地支配には反対する

1945年後

- 脱植民地の希望から、中華民国政府の「接收」を歓迎した
- 統治者として君臨する行政公署とその統治方針によって、再び植民地支配を経験する

- 二度目の植民地支配を経験することによって、二つの植民政権を比較する
- 日本統治は少なくとも現代化をもたらしたが、中華民国の統治は台湾社会を悪くした

⇒日本統治を懐かしむ

二・二八事件後

- 二・二八事件は、植民統治の再臨を抵抗するための抗争だったが、失敗に終わったのみならず、徹底的に鎮圧された
- 1949年後、中華民国政府が台湾に流亡し、国民党の一党専制政治を行う

- 「台湾人奴隷化説」と中華思想に基づく国民党の植民統治は、台湾人のいままでの経験、歴史、記憶、つまり台湾人としての主体性を全否定する
- 台湾人は主体性の否定に対抗するため、最大限の自己肯定⇒日本統治を美化する

結び：

終わりのない追求

- 二・二八事件に関する処理（調査、弁償、責任の追究、謝罪など）は終わっていない
- 事件は国民党政府の責任と省籍の対立などと絡んでおり、解決が困難である

- 国民党における専制統治下の政治事件なども同じ困難に直面している
- もう一つの二・二八⇒1980年2月28日「林宅血案」：美麗島事件の参加者林義雄の自宅にいる母親(60)、ふたごの姉妹(6)が惨殺され、長女(9)が重傷した

- 民主化と主体性への追求
- 2014年3月18日の学生運動



立法院占拠 (蘋果日報20140320)



立法院周边

(岩上安身20140320)